


読書推進運動


 公益社団法人
読書推進運動協議会
 〒101-0051
 東京都千代田区神田神保町1-32
 出版クラブビル6階
 TEL 03(5244)5270
 FAX 03(5244)5271
 発行人 佐々木 泰
 編集人 片岡 伸子
 定価 60円
会員の購読料は
会費の中に含まれる

No.689

- ★『2023年度 全国読書グループ総覧』刊行(2頁)
- ★「読書週間」ポスターイラスト募集 (8頁)



教科書を冒険しよう！

「子どもの読書週間」によせて

公益社団法人読書推進運動協議会
 一般社団法人教科書協会 会長
 理事

おだりょうじ
小田良次

「教科書を冒険しよう！」と

は、教科書協会が定めている4月10日「教科書の日」の今年のキャッチフレーズです。教科書は、児童・生徒が学校教育において基礎知識・学力を身につけるための主たる教材です。でも、教科書には「基礎知識・学力」だけが記述されているわけではありません。

そこには、科学の謎、歴史の物語、そして未来の可能性が秘められています。教科書の中には、私たちがまだ知らない世界が広がっています。毎朝、太陽が昇り、そして沈むまでの時間を日照時間と言います。これは最初の基礎知識と言えるでしょう。でも、ここで教科書では、その基礎知識に留まらず、その先のこと

に思いをめぐらせていくことができません。地上から見ているように、太陽が空をぐるっと廻っているのではなく、地球が自転しながら、さらに太陽の周りを廻っているというところは基礎学力。それを知ったところから、子どもたちの宇宙への冒険が始まります。「1603年に徳川家康が江戸幕府を開きました」と教科書に書いてあります。この年次を覚えておくのは、日本史の学習の上では、やはり基礎知識と言えるでしょう。でも、この時代の政治や文化を学んだところから、ではそれ以前はどうだったのか、戦国時代、室町時代、平安時代、さらに古代へと遡って、人々の暮らしはどうだったのかと、これまた子どもたちの冒険が始ま

とができます。

ります。こうやって日本の歴史を遡っていくと、たとえば最近のNHK大河ドラマとも結びついていき、さらに冒険を続けていきたくありません。逆に、江戸幕府開幕から現代に向かっていきましょう。徳川時代から、明治、大正、昭和、平成、そして令和となりました。たとえば江戸時代は飛脚や早馬で手紙を送っていましたが、明治になって郵便制度や電話サービスが始まったことは教科書で紹介されています。これもやつぱり基礎知識。でも、電話サービスが始まった1890(明治23)年というのは、実は第1回目の衆議院総選挙や帝国議會が開かれるなど、日本が近代化に向けて本格的に動き出した年だという記述にも気が

つくと、子どもたちはまた新たな冒険に目を向けられます。そしてその後、現代の高度情報通信社会へと発展してきました。情報技術、ICTは、現代社会の中で、どの暮らしの中にも欠かせなくなっています。テレビのリモコン、手元のスマートフォンなど身近なものから、地球を廻っている国際宇宙ステーションや人工衛星、すべてが高度情報通信技術に支えられている時代となってきました。この流れを教科書の中の歴史記述から学びます。そこで、ではこの先どうなっていくのだろうと、子どもたちは、今度は未来への冒険を始めます。

冒険を始めるといふことは、学習指導要領で言うところの調べ学習。主体的、対話的で深い学びをして、思考力、判断力、表現力を身につけていくことに繋がっています。どんな明日へ進むかは、読者しだいです。さあ、教科書のページを開いて、学びの旅へ出かけましょう。

へ出かけましょう。

『2023年度全国読書グループ総覧』刊行

調査にご協力いただいたすべての機関とみなさまに感謝いたします

公益社団法人 読書推進運動協議会は、2023年10月〜12月にかけて全国公共図書館協議会のご協力のもと行なった「2023年度 全国読書グループ調査」の結果報告書『2023年度 全国読書グループ総覧』を刊行いたしました。

今回調査では、1960件の図書館・類縁機関より1万1692のグループ（これまで、1万1697としていました）が回答の重複を精査し、最終的に1万1692といえました。ご活動をご報告いただきました。ご協力いただいた図書館・類縁機関のみならず、読書グループのみならず、心より感謝申し上げます。

『全国グループ総覧』には、都道府県別の読書グループ数のほか、読書グループの発足年代、活動の重なり状況、活動内容と活動場所の関係などを紹介。今回、特別に設けた「新型コロナウイルスによる休止期間」も、活動内容と活動場所別に集計いたしました。また、掲載を許可いただいた読書グループのお名前も、ご報告いただいた機関ごとに紹介しております。

2020年春より続いた、新型コロナウイルス感染症の影響による行動制限、公共施設の利用制限もあり、読書グループ数が大きく減ることも予想された今回の調査でしたが、前回2018年度より672グループの減少、2013年度の1万1452よりも多い結果となりました。また、「読書支援」や、高齢者施設・障がい者施設などバリアフリー施設での活動グループの活動休止期間が比較的短いなど、情報が届きにくい人たちに対象とした活動が継続された様子もつかえます。

今後、発送準備に入り、各都道府県立中央図書館へ5月の連休明けにご希望いただいた冊数をお送りし、その後、当会会員社・関係者と、大学の司書課程・図書館学研究室へ順次、送付する予定です。なお、集計表各種と「集計結果について」は、6月以降にPDFを作成し、当会ホームページに掲載する予定です。

「上野の森親子ブックフェスタ」開催へ

今年も多数の出版社が参加 ゴールデンウィークは上野へ！

5月4日(祝)〜5日(祝)、東京都台東区の上野恩賜公園で、「上野の森親子ブックフェスタ2025」(主催)子どもの読書推進会議/日本児童図書出版協会/一般財団法人出版文化産業振興財団)が開催される。

昨年(約)2万8500人が来場、書籍の売り上げも約3300万円に上り、ゴールデンウィークの上野公園を彩るビッグイベントとして定着している。催事のメインである謝恩価格での児童書販売「子どもブックフェスティバル」には、すでに昨年来上回る70社を超える出展を予定、ブースでは各版元がみずから厳選したラインナップを販売する。

販売される書籍の作家サイン会や、講談社の「全国訪問おはなし隊in上野公園」など、今回も盛りだくさんのお楽しみが予定されている。

■日書連「春の読者還元祭」開催

春の恒例行事！ 本屋さんで図書カードを当てよう！

日本書店商業組合連合会(日書連)は、4月21日(月)から5月12日(月)まで、「春の読者還元祭2025」を全国の実施書店で開催する。

この「読者還元祭」は、春と秋の「こどもの読書週間」「読書週間」の恒例行事として実施されており、今年5年目となる。

今年も実施書店では、書籍・雑誌を購入した読者に、キャンペーン

「春の読者還元祭」の詳細は日書連ホームページを参照。実施書店名も近日告知される。

今年も実施書店では、書籍・雑誌を購入した読者に、キャンペーン

抽選方法は、結果がその場である「スピードくじ」を採用している。当選者には、5月中旬以降



今年も盛況が期待される「子どもブックフェスティバル」(写真は去年)



【左】実施書店に掲出されるポスター 【右】読者に進呈されるしおり(見本)

●日書連ホームページ <https://www.n-shoten.jp/>

■伊藤忠記念財団 子ども文庫助成事業 贈呈式

全国の子ども文庫・実演グループへ あたたかいエールが贈られる

公益財団法人伊藤忠記念財団は2月27日(木)、東京都港区の伊藤忠商事東京本社ビルにて「2024年度子ども文庫助成事業 贈呈式」を開催した。

同財団の鈴木善久理事長は、「昨年創立50周年。この50年、読書推進活動をふれることなく行ってきた。子ども読書環境のための事業を継続し、新たな取組で裾野を広げていきたい」と述べた。



受賞は「純粋に誇らしい気持ち」と語る北村恵美子さん（びわこヒブリオ道場）

独立し、情報が行きわたったことなどを紹介。「応募書類から『継続は力なり』と尊さを感じた。自身の取組に自信と誇りを持ってください」と受領者を励ました。

子ども本購入費助成を受領した桂坂かえで子ども文庫(京都府)の清水鉄郎さんは、自治会運営の文庫活動を紹介し、「これを励みにいつそう充実した文庫を目指す。作家の講演会など10周年イベントを企画したい」と述べた。病院・施設子ども読書活動助成を受領した、てんやぐ絵本ふれあい文庫(大阪府)の岩田美津子さんは、「見えない人も見える人と同じように本を読みたいと、40年、てんやぐ絵本を作ってきた。今回の助成で、図書館への巡回展示ができる」と、抱負を語った。特別支援学校図書支援助成受領の東京都立高島特別支援学校(東京都)の石川拓校長は、「今回の助成は、東京の支援学校全体の取組への評価と思っている。これをエンジンに、支援学校として都内最大級の図書館を維持したい」と述べた。

功労賞受賞のびわこヒブリオ道場(滋賀県)の北村恵美子さんは、「私の子育て期に名作絵本が次々と生まれ、絵本や本との出会いをくれた。後進にも読書の楽しさ、子どもと関わる喜びを伝えたい」と、おはなし会普っコ(福岡県)の梅田恵子さんは、「この35年で20校の学校で語ってきた。当時の子どもたちが思い出を語ってくれる。あと10年したら、もっと深みのあるおはなしができるのを楽しみにしている」と喜びを語った。



現在、13の学校で全年齢におはなしを届けている梅田恵子さん（おはなし会普っコ）

祝辞は、東京子ども図書館の張替恵子理事長。「子どもが本を読み成長することを大切に考えている人が、日本各地に地層のようにいることを実感した」と述べた。贈呈式後の懇親会では、受領者たちの交流の輪が広がった。

■「第36回 読書感想画中央コンクール」

高校生からの応募が増加！ 全国から秀作・力作が集まる

1月31日(金)、「第36回 読書感想画中央コンクール」(主催：公益財団法人 全国学校図書協議会／毎日新聞社ほか)の中央審査会が開催され、文部科学大臣賞ほか32点の入賞が決まった。

今年、全国の小学校・中学校・高等学校から計57万8651点の応募があった。文部科学大臣賞の受賞者・対象図書は、以下のとおり。

●小学校低学年の部

西村咲希さん(徳島県吉野川市立知恵島小学校1年)『こつちにおいてよ、ちびトラ』(徳間書店)



小学校低学年の部・文部科学大臣賞受賞作品(西村咲希さん)

●小学校高学年の部

藤井さくらさん(島根県江津市立高角小学校6年)『すいぞ！クモの探偵団』(あかね書房)

●中学校の部

太田澤里さん(徳島市上八万中学校2年)『ぼくらが大人になる日まで』(講談社)

●高等学校の部

加藤稼働さん(静岡県浜松学芸高等学校2年)『うたうおぼけ』(講談社)

今年、高等学校からの応募が増えた。審査委員からは「対象図書のテーマをしっかりとつかんで、メッセージ性が伝わる作品が多かった」などの感想があった。

表彰式は2月28日(金)に、東京都千代田区の如水会館で開催された。また、入賞作品はすべて、同コンクール公式サイトにて閲覧可能となっている。

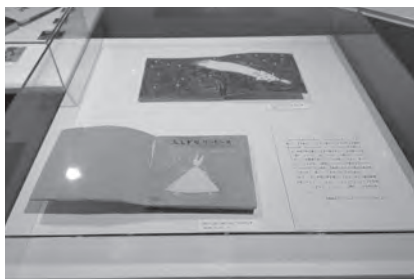
●読書感想画中央コンクール公式サイト
<https://www.dokusyokansougun.jp/kansouga/>

■ちひろ美術館・東京

鮮やかで無邪気な西巻茅子さんの世界にひたる展覧会

ちひろ美術館・東京（東京都練馬区）では、5月11日(日)まで、展覧会「西巻茅子はじめての絵本『ボタンのくに』そして『わたしのワンピース』を開催している。

会場には、西巻さんのデビュー作『ボタンのくに』（こぐま社）と3作目『わたしのワンピース』（こぐま社）の全場面のリトグラフを展示。『ボタンのくに』のリトグラフは、新たに版をおこして摺られており、その工程も動画で紹介されている。また、西巻さんが絵本に携わるきっかけとなった作品も展示されている。



『わたしのワンピース』のラフスケッチ
タイトルが「ふしぎなワンピース」となっている

3月3日(月)の内覧会で西巻さんは、両作品制作時の思い出や苦労話を披露し、『わたしのワンピース』は、はじめ評判が悪かったが、子どもが図書館で見つけて次々と借りてくれた。子どもが評価してくれたことがうれしく、この仕事を一生の仕事にしようと思った」と語った。

同時開催の「ちひろのアルバム」では、いわさきちひろが残した写真と、関連する絵をともに展示。ちひろ美術館では、膨大な量の写真をデジタルデータ化し、研究資料となる『いわさきちひろ 写真資料目録』を刊行している。

安曇野ちひろ美術館（長野県松川村）では、「戦後80年 ちひろと世界の絵本画家たち 絵本でつなぐ『へいわ』」を6月1日(日)まで開催。絵本を通して、さまざまな角度から平和について考える。また、昨年8月に新たに見つかった、ちひろの原画も、東京館・安曇野館で公開されている。

●ちひろ美術館サイト
<https://chihiro.jp/>

■音訳のための著作権を学ぶ

著作権を学び、障がい者サービスの充実を

公益社団法人 日本図書館協会 は、5月18日(日)に、オンラインで「音訳者・音訳ボランティアのための著作権セミナー」を開催する。このセミナーは、同協会の障害者サービス委員会が企画・運営するもので、対象は視覚障がい者等の資料を作成している音訳者、音訳ボランティア、障がい者サービスを担当する図書館職員ほか。

内容は、①「音訳ボランティア 必要な著作権法条文とその解説」講師＝小原亜実子（大阪府立中之島図書館）②「政令指定グループへの登録及び国立国会図書館の視覚障害者等用データ送信サービスのデータ提供を考えている方のために、国立国会図書館障害者用資料検索（みなサーチ）の紹介」講師＝国立国会図書館職員（予定）③「全国音訳ボランティア ネットワークの活動紹介及び図

■童美連 YouTube

絵の著作権について理解を深める 動画を公開

一般社団法人 日本児童出版美術家連盟（童美連）は、同会の公式YouTubeチャンネル「童美連チャンネル」で、動画『児童書の絵の著作権擁護のあゆみ』前後編と、『子どもの本の画家のための著作権講座』全3回を公開している。『児童書の絵の著作権擁護のあゆみ』は、ひらてるこさん（絵本作家）と浜田桂子さん（絵本作家）が出演。前編の「児童書の著作権獲得

書館・ボランティアに望むこと」講師＝藤田昌子（全国音訳ボランティアネットワーク代表）ほか 参加には事前の申し込み（締め切り＝5月8日(木)）と、参加費（1000円）が必要。内容の詳細、申し込み方法および申し込みフォームは、日本図書館協会障害者サービス委員会のサイトで確認できる。

●日本図書館協会 障害者サービス委員会
<https://www.jla.or.jp/portals/0/html/ish/index.html>



童美連チャンネル

の3つについて、丸田憲和さん（弁護士）が解説。著作権者向けの内容だが、事例をあげて説明されており、それ以外の人も著作権への理解を深めることができる。

●童美連チャンネル
<https://www.youtube.com/@dobiren>
童美連チャンネル

■「2025 えほん50」発表

昨年発行された絵本より選ばれた50冊のリスト

公益社団法人 全国学校図書協議会(全国SLA)は、推薦絵本リスト「2025 えほん50」全国SLA絵本委員会選定(協力)子ども読書推進会議)を発表した。

このリストは、2019年から毎年選定、発表されている。今回は2024年の1月から12月までに刊行された絵本より、全国SLA絵本委員会が「ぜひ子どもたち

に読んでほしい」と、テーマ、ジャンル、程度さまざまな観点から推薦する50冊が厳選されている。

リストはPDFとエクセル形式のファイルが用意されており、全国SLAのホームページからダウンロードが可能。絵本ごとに目安となる対象程度も記載されている。また、推薦絵本の書影と内容紹介が入ったリーフレットのPDFもダウンロードできる。

また、全国SLAでは、この「2025 えほん50」より、1年間を代表する特に優れた絵本として、「第30回 日本絵本賞 最終候補絵本」30点をノミネート。こちらのリストも公開している。

●全国SLAホームページ
「2025えほん50」紹介ページ
<https://www.j-sla.or.jp/recommend/ehon50/>

●第30回 日本絵本賞 最終候補絵本のページ
<https://www.j-sla.or.jp/awards/ehon/30th-ehonshou-final.html>

■国立国会図書館 国際子ども図書館 展示会

世界の子どもの本を手にとれる展示会

国立国会図書館 国際子ども図書館(東京都台東区)は、5月25日(日)まで、展示会「世界をつなぐ子どもの本」2022年国際アンデルセン賞・IBBYオナーリスト図書展」を開催している。

この展示会は、国際児童図書評議会(IBBY)が隔年で作成する推薦児童書リスト「IBBYオナーリスト」2022年版の掲載図書に、2022年国際アンデル



「世界をつなぐ子どもの本」展ちらし

セン賞受賞者、マリー・オー・ド・ミュライユ(フランス)とスージー・リー(韓国)の諸作品をあわせた、約200冊を展示する。

「IBBYオナーリスト」は、IBBY各国支部が自国で新たに発行された児童書のなかで外国に紹介したい作品から選ばれる。「文学作品」「イラストレーション作品」「翻訳作品」の3部門からなり、2022年版は53の国・地域から

●国際子ども図書館ホームページ
<https://www.kodomo.go.jp/>

■書店・図書館・出版社の協働を目指して

図書館欠本調査の報告と「しぎの一步」への提言

3月14日(金)、東京都千代田区の日比谷図書館文化館で「集まれ!! 書店・図書館・出版社 一書店・図書館・出版社の实のある交流を目指してーつぎの一步」を踏み出しませんか!!「欠本調査報告とつぎの一手の提案」(主催)千代田区立千代田図書館)が開催された。

い。出版社の作業量に見あっているのか、不安が残る」と述べた。司会の菊池壮一さん(活字文化研究所)からは、「推奨図書を気軽に購入せず、定期的な購入に分散させる方法もある。調査による購入冊数が少なくても、出版社側には図書館スタッフとの縁が、新刊書や関連書を紹介する日常の機会を得ることができる」と出版社側のメリットが示された。

昨年の実施状況が報告され、さらには、出版取次のトーションと日販がそれぞれ、自治体や図書館と連携し、書店空白地を中心に取組を進めていることを紹介した。塩尻市図書館からは、イベントや展示にあわせ、市内書店組合と連携して本の販売を行っているとの報告がされた。

出版の立場から、成瀬雅人さん(原書房)は、「図書館ではぜひ、貸出・リクエスト待ち上位のベストセラーを売ってほしい。誰が売れるのか、返本の送料をどうするかなど課題は多いが、道すじを作るだけでもありがたい」と述べた。

「世界をつなぐ子どもの本」展ちらし

「世界をつなぐ子どもの本」展ちらし

優良読書グループの歩み (4)

2024年度の「読書週間」に際して道府県読書推進運動協議会より推薦され、本会において表彰した全国の優良読書グループの活動報告を掲載いたします。
(順不同)

読み聞かせボランティア ダンボの会

代表者 北井 晴美

栃木県芳賀郡市貝町

〈推薦〉

栃木県読書推進運動協議会

1991年11月、市貝町立図書館の開館半年前に、町が町民を対象に読み聞かせボランティアを募集し、ダンボの会は発足しました。

①絵本や児童書に親しんでもらう
②親子のふれあいの時間を楽しんでもらう
③図書館を多くの人に利用してもらうを目標とし、

毎月1回(年10回程度) 毎回50分程度、幼児・小学校中学年の親子を対象に絵本や紙芝居の読み聞かせ「ダンボの会のおはなし会」を実施しています。発足当時はボランティア団体が少なかったこともあり、町内をはじめ近隣市町の幼稚園・小学校・図書館の読書イベントなども実施していました。ブックスタートでは、1歳半健診

時に絵本の読み聞かせを行っていました。

おはなし会では、読み聞かせのほかに、パネルシアター・手作りのペープサートやエプロンシアター、うちわシアター・手袋シアターなども行い、手遊びや折り紙、子どもたちの様子により手品なども取り入れています。

発足当時は子育て中の会員がほとんどでした。子どもを背負いながら絵本を読んだり、会員の子どもを交代で抱っこしたりする姿を見て、「私にもできるかも」と集まってくれた会員もいます。

参加者とともに自分たちも楽しむことを心がけてきましたが、続けるのにしんどい、行きづまりを感じることもありました。そのようなときは、研修会に参加・主催したり、近隣市町団体との交流会を開いたり、広く情報や知識を得て自己研鑽に励みました。特に図書館では参加者に年齢差があり、そのときの子どもたちにあわせて絵本を選ぶことが要求されていた

へんですが、対応力がついてきました。しかし、活動が軌道に乗ってきても、ライフスタイルの変化により活動がむずかしくなった会員も多くなりました。ここ数年の社会の変化とともに、私たちの活動も変わってきています。それでも、いつも変わらずぬ仲間の笑顔があり、それを絵本が繋いでくれている。読み聞かせを待つ子どもたちがいる。続けない理由はありません。

子どもたちが物語の世界に夢中になっているときの輝きが好きで、そんな子どもたちと関わることが喜びです。自分たちのできることを、できるときにできる範囲で、無理せず・あせらず・た



物語にふれた子どもたちの喜びが活動のエネルギー

ゆまず・侮らずに、仲間を認め合いながら、新しい風を吹かせていきたいと思えます。

米子おはなしかご

代表者 伊澤 和恵

鳥取県米子市

〈推薦〉

鳥取県読書推進運動協議会

「米子おはなしかご」は、中学校の朝読書ボランティアをしていた3名での読書会から始まりました。2011年より、それぞれが東京子ども図書館の「お話の講習会」を受講し、楽しいお話を子どもたちに届けることの大切さを学び、大いに共感しました。

2014年4月より米子市立図書館の協力を得て、ストーリーテリングのお話を立ちあげ、その後、3名の仲間が加わり、2017年4月からは毎月第3土曜日を定例お話し会として続けています。夏休みには、「小さい子のじかん」「大きい子のじかん」のお話会も開催しています。また、子どもにも語るストーリーテリングを大人にも聴いていただきたいの思いで年1回、大人のためのお話し会を開催しています。そして



深い学びに裏打ちされたストーリーテリングを届けたい

毎年、宇田祥子さん(鳥根県)を招いて、メンバーのスキルアップのための講習会を開いています。

ゆめ基金の助成を受けて、2017年6月、東京子ども図書館の講師、内藤直子さんと加藤節子さんおふたりを招き、講習会とお話を開催しました。その2年後にも、平田美恵子さんのお話を開催して、子どもたちと地域の大人にもストーリーテリングを楽しんでいただきました。

2020年からのコロナ禍では、活動を中止しなければならぬときもありましたが、毎回プログラムを準備し、メンバー同士での勉強会を続けました。会の運営は、6名それぞれが役

を担い、継続しています。

図書館以外での活動は、地域の保育園でお話を10年続けています。今年度からは、「子どもの聴く力を育てたい」との考えで、別の保育園の年長児にストーリーテリングを届けています。

また、語り手を増やしたいと考え、今年夏より、私たちメンバーと一緒に3名の方がストーリーテリングの勉強会を始めました。

この秋には、ストーリーテリングを知らない方にも声をかけて、お話を届けたいと考え、宇田祥子さんと床井文子さん(島根県)を招いてお話を企画しています。

今後は、小学校でのお話会が広がって、定着できればと考えています。仲間を増やしつつ、より多くの子どもたちに楽しいお話が届けられるよう、活動を継続して行きたいと考えています。

ひよっこのお話

代表者 仁田 直美

熊本県天草市

熊本県読書推進運動協議会
(推薦)

私たち絵本読み聞かせグループ「ひよっこのお話」は、1998年に、

当時の天草郡天草町の教育委員会により、町の中央公民館図書室で

絵本の読み聞かせをしたのが始まりでした。その後、2001年に天草町の5つの小学校(福連木、下田北、下田南、高浜、大江)への読み聞かせを開始しました。会員数は、5〜10名で推移しながら、現在は5名で活動をしています。

活動内容は、まず第一に小学校への読み聞かせです。小規模校なので、1・2年生、3・4年生、5・6年生というように2学年ずつ合同で月1回ずつ行います。場所は、だいたい、広い音楽室です。コロナの間も休むことなく続けることができました。特筆すべき活動は、毎年2月3日



対面での読み聞かせが子どもたちを育むと信じて

日の節分の日に、高浜地区の「隣峰寺」で行われる「子ども節分会」への参加で、絵本の読み聞かせはもちろん、紙芝居やゲームなどいろいろ工夫し、会を盛りあげました。また、この会のメンバー

でもある住職さんも、節分にちなんだおはなしや絵本なども読まれて、私たちにとても楽しく勉強になりました。参加者は、子どもたちはもちろん、赤ちゃんから大人まで幅広い年齢なので、絵本

選びもいろいろ悩みながら……。年に一度のこの集まりは、残念なことにコロナ以降休止になっていきます。そのほか、小学校の春夏冬の休みに、児童館や保育所でおはなし会をしています。

たぶん、会員数は増減を繰り返しながら、そのときに想いのある人が参加してくれると信じています。この会が誕生したところと現在では、世の中の子どもたちを取り巻く環境もずいぶんと変化しています。それにはネット環境の発達が大いに関係していると感じます。

幼いころからスマホの操作にも慣れた子どもたち、そしてスマホもひとり一台の時代。そんな時代だからこそ、私たちの読み聞かせが子どもたちの成長にとって、ま

すます重要になってくるのは必ずだと思います。

映像ではなく、生身の人間が絵本を読むとき、作者の想いが読み手の口から、その声から、体から、表情から伝わるものがか子どもたちを育む心の体のビタミンとなつてゆくことを信じて、これからも活動していきます。この活動を続けてきたこと、続けてゆくことが宝物だと信じて……。

お詫びと訂正

機関紙『読書推進運動』688号(2025年3月15日発行)の6ページ目「優良読書グループの歩み」におきまして、誤りがありました。ここに訂正し、お詫び申し上げます。

該当箇所「おはなしグループマザーリーフ」(岩手県一関市)本文10行目

【誤】「……再結成して2022年

に……」

【正】「……再結成して2002年

に……」

■NPOブックスタート

子どもと絵本の写真を募集!

NPOブックスタートは「第4回いっしょにえほん写真コンテスト2025」を開催すると発表しました。募集要項は、次のとおり。
【第4回いっしょにえほん写真コンテスト2025】

◆募集期間 4月21日(月)〜5月19日(月)

◆選者 かいまりさん(絵本作家)、金柿秀幸さん(絵本ナビ代表)、きなごさん(フォトグラファー・インスタグラマー)

◆大賞賞品 イラストレーター山口みれいさんによる大賞作品のオリジナルイラストと、受賞写真をレイアウトしたオリジナル図書カード(5000円分)

◆募集内容 ①子どもとの絵本のひとときを撮影した写真とコメント(100字以内)

◆応募方法 NPOブックスタートのInstagramをフォローし、「#いっしょにえほん写真コンテスト2025」NPOブックスタートのアカウント名 @bookstartjapan を入れて、写真とコメントを投稿

2025・第79回読書週間

ポスターイラスト募集

標語は「ころとあたまの、深呼吸。」



2021年
しらいたまもさん



2023年
鈴木初奈さん



2022年
たしさとみさん



2024年
熊梨江さん

秋の「読書週間」のシンボル、ポスターのイラストを募集します。

○賞

- ・大賞(1名)……賞状と賞金10万円
- ・優秀賞(3名)……賞状と賞金1万円
- ・入選(10名前後)……記念品(図書カード)

○応募要項

- ①標語「ころとあたまの、深呼吸。」をイメージした未発表の創作原画 *「読書週間」などの文字情報は作品に入れないこと
- ②サイズ B4判、タテ
- ③用紙・画材 自由
- ④CG作品はトンボを含むB3で作成、B4でプリントアウトする
- ⑤カラー、モノクロとも可
- ⑥立体、半立体、写真、コピー、生成AIを利用した作品は不可

- ⑦応募資格 高校生以上。合作は可だが、応募はひとり1点
- ⑧ハガキ大の用紙に以下を明記し、作品の裏面に添付のこと
- 氏名、郵便番号、住所、電話番号、年齢、職業、メールアドレス(任意)
- ⑨応募締切 6月10日(火)必着
- ⑩送り先・問い合わせ先
〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-32 出版クラブビル6階

- 公益社団法人 読書推進運動協議会「読書週間ポスターイラスト」係
TEL 03-5244-5270
- ⑪発表 8月上旬、入賞者に通知
- ⑫入賞作の二次使用権は公益社団法人 読書推進運動協議会に帰属
- ⑬作品は返却しません。返却希望者はその旨を明記し、着払い伝票(必要事項記入、ゆうパックに限る)を同封のこと

事務局報告(3月)

- ・3日 ちひろ美術館・東京 展示内覧会出席
- ・4日 台東区役所訪問、「上野の森親子ブックフェスタ2025」の件うちあわせ
- ☆5日 決算資料確認およびうちあわせ(契約会社土来所)
- ☆6日 機関紙「読書推進運動」688号入稿
- ☆7日 機関紙「読書推進運動」688号入稿
- ☆7日 全国学校図書館協議会訪問、役員改選についてうちあわせ
- ☆7日 2025「こどもの読書週間」趣旨書出来
- ☆11日 2025「読書週間」イラスト募集ポスター入稿
- ・11日 日本児童出版美術家連盟懇親会出席(スクワール麹町)
- ・12日 伊藤忠記念財団子ども文庫助成事業「応募要項」送付開始
- ☆14日 機関紙「読書推進運動」688号出来
- ・14日 千代田図書館主催「あつまれ!! 書店・図書館・出版社」参加(日比谷図書館)
- ☆18日 内閣府サイトに2025年度事業計画、収支予算等提出
- ・19日 「絵本ワールド紀尾井町」とうがね」実行委員会来所、うちあわせ
- ☆21日 2025「こどもの読書週間」イラスト募集ポスター1校
- ・24日 2025文部科学省「読書推進活動」に関する審査、審査表提出
- ☆25日 第1回常務理事会案内郵送
- ☆25日 2025「こどもの読書週間」について、電通に素材を送付、パンフリシテイ依頼
- ・28日 2025 文部科学省「読書のまちづくり推進事業」に関する審査審査表提出

編集部&事務局のひとこと

● 去年の8月に公開された自主制作映画『待タイムスリップ』の人氣はまだ続いているようだ。脚本、撮影、照明、編集、機材の運搬やポスターのデザインまでこなしたという安田淳一監督が、時代劇とチャンバラへの愛をいっばいに詰めこんで完成させた作品だ。池袋のシネマ・ロサ1館で始まった公開があつという間に全国規模に、自主制作映画としては「カメラを止めるな!」以来の大ヒットだそうで、多数の賞を受賞。現在も上映中とのこと。私は秋ごろに劇場で観て、そのおもしろさに感服。この3月にはサブスタでも配信が始まり、リピートしている。

● 幕末の動乱を生きていた会津藩士が「宿敵」の長州藩士と剣を交えている最中に、雷に打たれてタイムスリップしてしまう。やってきたのは現代の京都東映撮影所、というお話だ。太秦の撮影所が全面的に協力して撮影されたそうで、主人公は「斬られ役」として現代で身をたてていることとする。コメディの要素もあり、時代劇好き、そして「会津びいき」としては、感情移入してしまふ。

● 映画の後半に主人公がクラシカルなバーでスコッチを飲むシーンがあるが、私も好きなオークラ京都の「チップペンデル」でロケをしていて、こういうディテールもうれしい(以上ネタバレはないつもり)

● 何度も観るうち、どうしても時代ものに意識が向いていく。ある時期よく読んだ「剣豪もの」「秘剣もの」をひさしぶりに引っぱりだして再読してみようかしら。(佐々木)